

## ◆「三次元映像のフォーラム」(立体視関連 新技術・新製品) 参加報告

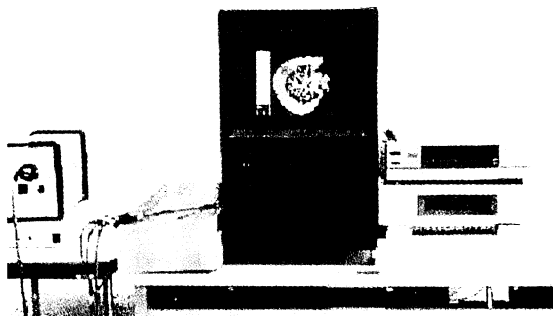
小林広美

VRセンター横浜

(News letter Vol. 4, No. 5)

三次元映像のフォーラムの第48回研究会が、去る5月15日(土)の10時～4時まで、東京都写真美術館ホール1階にて開催された。

【三次元映像とステレオ写真】 【ホログラフィー】 【立体映像空間】 【バーチャル・リアリティ】 の4テーマ、12発表があった。ホログラムや立体写真などの展示も行われた。VRセッションでは4発表(以下)。



AIキューブの福原様からは、リアルタイムグラフィックスエンジンAIキューブシェルの高速度、開発環境、メモリットなどを中心に解説。

東京工業大学の佐藤誠教授からは、「仮想世界の画像と力覚のプロセス間通信」という、力覚ディスプレイのプログラム開発にとって重要なポイントの解説があり参考になった。また中京大学の鬘衛教授からは「両眼立体視の消失」というテーマでご講演があった。

当社(以下VRCY)は今までの活動内容と共に、当社のパートナーの中から、3Dディスプレイに関連する新技術を紹介した(以下)。

・シーフォン社 【めがねなし立体テレビ】 Autostereo display

最大の特徴は、めがね不要で、頭を前後左右に動かしても立体映像が崩れず、同時に一人以上の観察ができること。「本物の」立体テレビになる可能性を持つ。

<http://www.ddd.co.jp/vrc/SeaPhone/index.html>

・デンソー 【TSS液晶ディスプレイ】

デンソーではTSS(Tri-State Switching)と呼ばれる高速応答・広視野角性能を持つLCDを開発した。この方式は垂直周波数120Hzを実現できるため、フラットディスプレイで液晶シャッターメガネや偏光メガネ用シャッターフィルターが利用できる。今後VRの応用にも重要な意義をもつ新開発である。

・3Dテレビジョン社 【テレビ用3Dメガネ、3Dコンバータ、撮影キット】

テレビを立体視するための簡易型3Dメガネ、2次元の放送やビデオテープを3Dに変換する2D/3Dコンバータをセットで7万5千円という低価格で発売する。家庭用のハンディカムに取り付ける立体撮影用アダプタが10万円。低価格と放送通信網により、立体視が消費者レベルに広まる可能性がある。

・ソニー 【新型高精細立体HMD：LDI-D100】

ソニーではSVGAの解像度を持つ155万ドットの0.7インチ高密度液晶パネルを搭載した立体視対応のHMDを開発。IVRの前に正式リリースされる予定。

高精細であるが価格は70万円前後と従来型の約半分。

[http://www.ddd.co.jp/vrc/product/SONY\\_HMD.html](http://www.ddd.co.jp/vrc/product/SONY_HMD.html)

## ◆「第13回世界理学療法連盟学会(WCPT'99)」参加報告

田中敏明

札幌医科大学

(News letter Vol. 4, No. 7)

第13回世界理学療法連盟学会(WCPT)が1999年5月23日～28日、パシフィコ横浜にて開催された。4年に1度の学会であり、アジア諸国で初めての開催ということで23日には天皇・皇后両陛下ご臨席のもと、開会式が盛大に行われた。講演者は70カ国、1433名、学会参加者は延べ5000名を超えたとのことであった。研究内容としては、4年前のアメリカ合衆国での第12回学会よりもいっそう基礎医学的研究の充実、神経疾患の理学療法、運動学、運動制御、福祉機器などに関する研究への拡大発展が認められた。

また、特別講演としては、動物の理学療法、結合組織再生のための物理療法(超音波、レーザー、電気刺激療法)の効果に関する基礎研究、中枢神経疾患に対する電気刺激療法、姿勢制御・バランスに関する研究、呼吸